

令和6年度報告分 若桜町介護保険事故報告事例

番号	サービス 種別	対象者		種別	事故内容	事故発生 時間帯	事故発生 場所	事故発生時の 対応	事故発生後の 対応	事故の原因分析	再発防止策
		年代	要介護度								
1	介護老人 保健施設	90歳代	要介護2	転倒	居室前廊下からドスンと音が聞こえ、確認すると転倒していた。	10:00～ 10:59	廊下	バイタル異常なし、左肩痛の訴えあり。医師が診察。経過観察とし、痛みが継続するようなら整形外科受診の指示。	家族へ報告、謝罪。翌日、痛みが継続。整形外科の受診予約をし、家族へ付添いを依頼。2日後に受診。左鎖骨骨折の診断。	事故前日から事故発生時までの様子に、特に気になることなし。 通常歩行に見守りの必要なく、安定して歩行可能。 事故当時、衣類の引っ掛かり、靴のかかとを踏んでの歩行なし。 夜間トイレに行く際に、時々ふらつきがあったことから、朝食後ベッドで休み、起きた際に覚醒状態が不十分であった可能性あり。	骨折箇所のバンド固定期間は移動時に付き添う。 当面居室を職員詰所近くに変更し、様子観察を行う。 毎月実施の労働環境確認を再度徹底し、歩行に障害となる箇所の確認等を行う。
2	定期巡回 随時対応 型訪問介護看護	90歳代	要介護2	転倒	呼び声にて居室を随時訪問すると、オーバーテーブル横に仰臥位で転倒していた。（カーテンを閉めようとしてふらつき、つかまった物干しと共に転倒）	13:00～ 13:59	居室（個室）	職員2人でベッドへ移動させ、臥床してもらう。左手背皮下出血、左背部痛、肩甲骨痛あり。主治医に報告。	家族へ報告。翌日、痛みが強く体動困難となり、救急搬送。腰椎圧迫骨折の診断。	普段はケアコールを押して依頼があったが、事故発生時は自身で閉めようとしふらついた。窓際へ移動する際に掴まるものはポータブルトイレや物干しで、体を支えられなかった。	動線を考慮し掴まり歩行ができるよう、窓際にも置き型手すり設置を提案する。 日中は常時レースカーテンをひく。
3	(介護予防)小規模 多機能型 居宅介護	90歳代	要介護2	転倒	居室より大きな音と声が聞こえ、訪室するとベッド右横に左側臥位で倒れているのを発見する。（居室内のトイレに行こうとして転倒し腰を打った）	21:00～ 21:59	居室（個室）	外傷等はないが痛みの訴えあり。臥床後、血圧測定し様子観察を行う。宿直職員へ連絡し、看護師、家族への報告は翌朝行う。	翌朝、家族へ報告。同日、痛みが強く起き上がり動作が困難となる。午後には発熱したため、翌日受診。腰椎一番圧迫骨折の診断。	事故前日に退院し、そのまま連泊利用となっていた。 夜間帯はベッド横にポータブルトイレを準備。排泄時はポータブルトイレ使用とナースコールするよう声かけをしていたが、居室内のトイレに行こうとしていた。 入院前は歩行器を使用していたが、退院後で体力低下あったため車いすを使用。居室内に歩行器を置いていなかった。	歩行器をポータブルトイレ横に置き、歩行時に使用できるようにする。 動きに気づけるよう、夜勤待機場所に近い居室を利用する。 退院直後で状態が違うため、こまめな訪室を行う。

4	特定施設 入居者生 活介護	80歳代	要介護1	転落	事故前日、コロナ陽性 判明。当日、様子確認 実施の際、うつ伏せの 姿勢でベッドから落ち かけている状態を発見。	1:00～ 1:59	居室(多 床室)	臥床介助。痛みの訴え なし。外傷を確認する と腹部に直線状5cm程 の赤みあり。	その後の訪室の際、自 力で起き上がれず足 付け根痛みの訴えあ り。看護師到着後、救 急要請し搬送。左仙腸 骨関節脱臼の診断。 家族へ連絡し状況説 明。	前日にコロナ陽性となり、普段 の動きがとれなかった。 夜間巡回は18時、21時、0時 半、4時半であるが、コロナ陽性 者のため他利用者の巡回後に 訪室した。 コロナ陽性者であり、必要最低 限の入室・対応であった。 感染症対応をしており、予防着 など装着のため、すぐに入室・ 対応ができない。 夜勤待機場所から最も離れた 居室であり、物音や声は聞こえ ない。	巡回以外でもこまめに様子伺 いをする。 居室近くを通りかかった時は様 子を伺う。 体調不良時は普段通り動けな いと予測し、排泄の声かけ・介 助など早めに対応する。
---	---------------------	------	------	----	---	---------------	-------------	---	--	---	---

※ 若桜町の被保険者に係る報告(町外の介護サービス事業所を含む)